

鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等をつなぐ二次交通改善活動プラットフォーム (令和6年度第2回全体会議)の開催結果について

令和7年3月19日
交通政策課

鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等をつなぐ二次交通改善活動プラットフォーム(令和6年度第2回全体会議)が民間主導で開催されましたので、この結果について報告します。

1 開催結果

- (1) 日 時：令和7年3月12日(水) 午後1時30分から午後3時20分まで
- (2) 場 所：鳥取砂丘コナン空港 国際線ターミナルビル 2F(出国待合室)
- (3) 構 成 員：【座長】鳥取大学教授 谷本圭志、【航空関連】ANAホールディングス(株)、ANAあきんど(株)、全日本空輸(株)、【交通事業者】西日本旅客鉄道(株)山陰支社、日ノ丸自動車(株)、日本交通(株)、鳥取ハイヤー共同組合、ニッポンレンタカー中国(株)、【観光団体・民間会社】鳥取商工会議所、鳥取県商工会連合会、(一社)鳥取市観光コンベンション協会、(一社)麒麟のまち観光局、(有)コナン・クリエイション(北栄町観光協会)、空の駅アドバンス会、鳥取空港空の駅女子会【オブザーバー】国土交通省 鳥取運輸支局、鳥取市、倉吉市、岩美町、八頭町、湯梨浜町、北栄町、鳥取県(交通政策課/空港振興室、観光戦略課)【事務局・調査会社】鳥取空港ビル(株)、八千代エンジニアリング(株) (以上、順不同)
- (4) 結果概要：令和6年度の取組状況の報告および総括、令和7年度の取組方針について協議し、進め方について承認を得た。令和7年度も「共創・MaaS実証プロジェクト」(国補助金：2/3)に応募し、エリア・事業者を拡張し実施することについて合意形成が図られた。
- (5) 主な報告内容：

- 令和6年度「共創・MaaS実証プロジェクト」の実施結果
 - ・鳥取砂丘コナン空港と鳥取港(以下「ツインポート」)間のヒト(観光・ビジネス・地元)の移動手段を確保しつつ、港で販売しているモノ(特産品など)を空港に運搬する方策とセットで取り組むことで、交通事業の収支改善、持続可能な地域交通の確保および地域住民の利用促進等を目指すもの(令和6年10月8日、令和7年1月23日 本常任委員会報告済)。
- 令和6年度の人流分析検討結果の報告
 - ・検討する拠点となるエリアについて、ループ麒麟獅子(R6.12時点:図-3)のバス停に加え、ループ麒麟獅子のルート付近の人が集まる拠点を抽出し、13拠点(エリア)とした(図-1)。
 - ・拠点間の移動を携帯電話のGPS情報を利用し、15分以上滞在した後、次の拠点に移動したものの件数を集計し、需要を算出する。この移動には、徒歩、自転車、バス、鉄道、自動車等すべての移動が含まれる。
 - ・バスによる輸送量と便数を掛けて供給を算出し、需要と供給のギャップを可視化する。
 - ・これらによって検討した結果、鳥取大学周辺とイオンモール鳥取北周辺間などの需給ギャップが非常に大きいことが判明した(図-2)。この需給ギャップとは、需要量(移動量)と供給量(輸送量)の乖離(差)のことで、この値が大きいほど、バスに乗ってもらえる可能性のある人が多いということである。
- 令和7年度に向けた取組の流れ
 - ・前述の結果から、需給ギャップが大きい区間に係る対応の必要性を含めて検証し、あらゆる手段・可能性を排除せず観光・ビジネス需要と生活需要の双方に対応した移動手段の提供について検討していく。



図-1 選定した13の拠点(エリア)

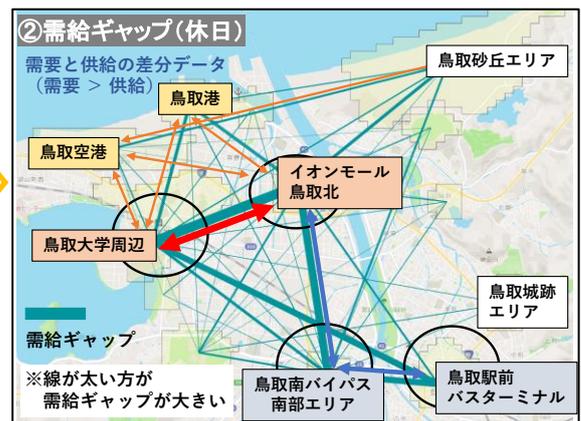


図-2 需給ギャップの可視化

(6) 主な意見

- バスについては、既存路線(生活路線である賀露循環線等)があることも配慮願いたい。
- 空港から鳥取港(賀露)に特化して自動運転のバスを導入することも一つの手段だと思う。
- あらゆる手段・可能性を排除せずに取り組む必要がある。

2 今後の予定

令和6年度まで実施した検討・検証を実装に向けて取り組んでいく。

令和6年度実施した「かろいち」、「わったいな」などの他事業者との連携を拡張し、さらなる可能性・実現性を検証していく。

このために、本プラットフォームでの情報共有、各事業者と連携・協力を密にして取り組んでいく。



図-3 既存バス路線ルート図